「【皮下注】ペルツズマブ＋トラスツズマブ＋GEM」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している転移・再発の乳癌に対して行われる治療法です。「GEM」とはゲムシタビンの略称です。

1．投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
ペルツズマブ＋トラスツズマブ ※1	抗がん剤	皮下注射
生理食塩液	経過観察	30分※2
デキサメタゾン	吐き気止め	15分
ゲムシタビン	抗がん剤	30分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

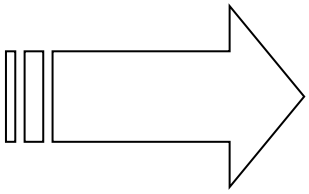
※1 ペルツズマブとトラスツズマブを配合した薬剤です。

※2 観察時間はインフュージョン・リアクションの出現の有無を観察する時間で、15分まで短くなることがあります。

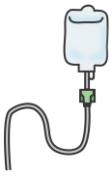
2．スケジュール

ペルツズマブ＋トラスツズマブ＋GEM は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日と8日目に抗がん剤を投与し、その後の13日間（21日目まで）は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		
	1日目	8日目	9日目～21日目
投与日	○	○（ゲムシタビン）	
休薬日			○



3．特徴



●<u>ゲムシタビン</u>

作用：がん細胞の DNA 合成を抑制することで抗がん作用を示します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

●<u>ペルツズマブ</u>

作用：がん細胞の表面にある HER2（ハーツー）受容体においてその働きを抑制し、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●<u>トラスツズマブ</u>

作用：がん細胞の表面にある HER2（ハーツー）受容体への刺激をブロックしてがん細胞の増殖を抑制します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくても注意が必要な副作用（有害作用）について掲載しました。
（ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にしていただきたいと思います。）

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる（免疫反応）役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期：抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21日目くらいには回復します。

対策：**細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。**

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合は速やかに抗生剤の内服を開始し、3日間飲みきるようにしてください（途中で解熱しても服用を中止せず飲みきってください）。それでも解熱しない場合はご連絡ください。

※ただし、抗生剤によるアレルギーと思われる症状（発疹、かゆみ、動悸、発汗、息苦しさなど）が現れた場合は服用を中止しご連絡ください。

血小板減少

血小板は血液を固まりやすくする働きがあります。血小板が少なくなると出血しやすくなります。

好発時期：抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

症状としては、あざができやすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなったなどです。

対策：ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

注射時反応（Infusion reaction）

好発時期：ペルツズマブやトラスツズマブの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

主な症状は発熱、悪寒（さむけ）などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

対策：解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

発熱・倦怠感

好発時期：ゲムシタビン点滴後２～３日くらいの間にインフルエンザのような発熱や倦怠感、関節痛、頭痛などが起きることがあります。

対策：通常は解熱鎮痛剤で対応が可能ですが、症状が改善されずに長引くときは感染の可能性も否定できないため早めにご相談ください。

普段から疲れやすい方は症状が出やすくなりますので、寝不足や過労は避けていただく方がよいでしょう。

発疹

症状：皮膚が赤くなったり、かゆみや水ぶくれのような症状が出ることがあります。

対策：ひどく続くようであれば軟膏などで対応することが可能です。

もし目や鼻の中、唇の周りなど**粘膜に発疹が出た場合は早めにご連絡ください。**

食欲不振・味覚障害

好発時期：点滴終了後から数日間で起きてくることがあります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味（甘味、塩味、苦味など）を感じなくなることがあります。

対策：食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

口腔ケアによって味覚障害が予防できることがあります。清潔に保つよう心がけてください。

洗浄液をお使いの時は低刺激性のものをお使いください（水だけでも効果はあります）。

吐き気・嘔吐

好発時期：治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

対策：抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分（水、スポーツドリンクなど）はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ、息苦しさ（座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など）、手足のむくみなどの症状が出てきます。
重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

好発時期：治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策：定期的に心臓の機能検査を行い評価します。
状態によっては休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。
もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。
上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低い（1％程度）ですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策：**初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。**

アレルギー

好発時期：点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。
自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでるなどです。

対策：異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう（漏出）ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。

好発時期：点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策：抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表：TEL　028－626－5500